

ダルク女性ハウス

DARC Women's House

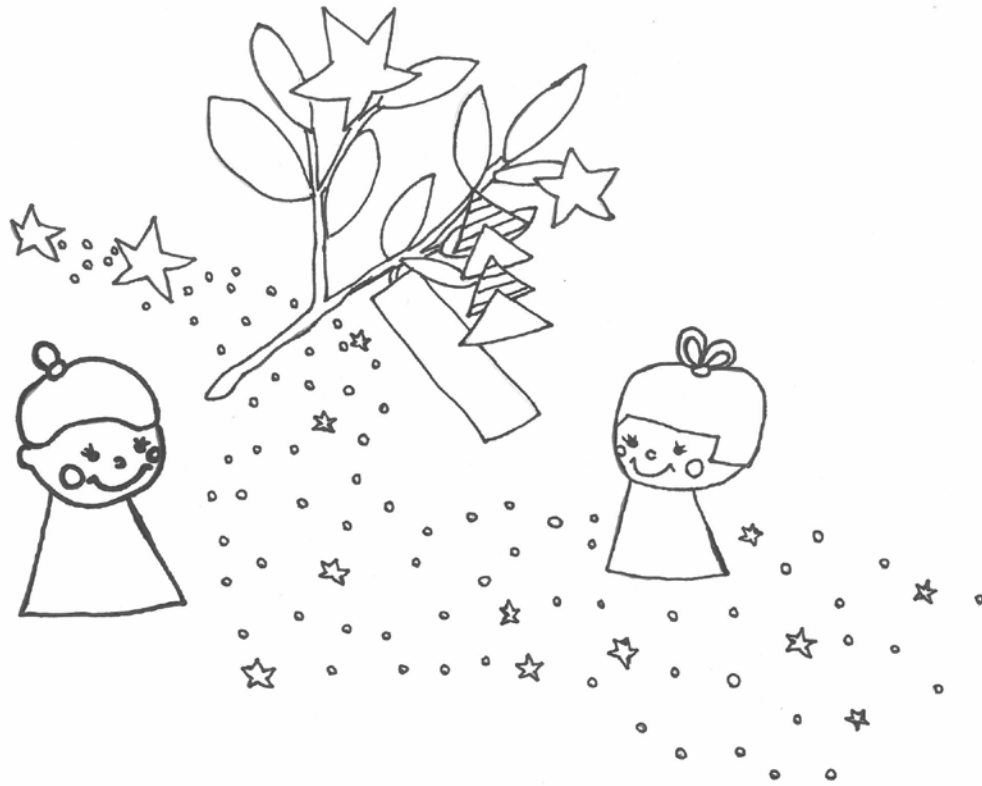


イラスト さち

■相談は簡単じゃない■

はるえ

私のまわりの援助交際サバイバーたちは今とても困っている。思春期のすごく困っているときに、死ぬか生きるかの勢いで援助交際をして生きのびたので、一番つらい時や、東日本大震災などでパニック状態におちいったとき、一番はじめに浮かぶのは相談ではなくなんとかいきのびるための、売春になるらしい。

まあ私も変わらないわね。私はアルコール・薬物依存症なので、幸せだ飲みたい、疲れた吐きたい、あーなんだか人間関係壊したい、あーなんだか、死にたい。雨がうっとおしい、すべてを捨てて酔いどれたい。風俗か、アルコールか、薬物か、食べ吐きか、感情の上がり下がり依存症の症状で抑えようとする。

私は今でもそれが必要な気持ちになるが、実はやらない。私の話しを聞いてくれる人たちに言葉で話すのだ。そしてそんな気持ちを早く捕まえられるようになった。

ダルク女性ハウスを開所して26年がたった。トラウマの原因は様々だが、みんな自分なんか相談していいと思えなかったから、『相談してね』ではなく、「なんでもいいから連絡してね」が一番役に立ったといっている。私は彼女たちのそばにいて、おろおろ心配をするか、怒るか、ストレスアウトするか、肺炎になるか、なんて生活だった。私だって体中が痛いのである。彼女らの生活のスキルをあげることや、新しい価値観や、それを一緒に探すことや、そんなことしかできなかった。まあ本当によく生きてきたね、と思う。

■1年を迎えて■

くり

私がフリッカ（ダルク）につながったのは、6回目の刑務所を出所し、保護会から逃げ、友達の家から入院したことがきっかけでした。病院に入り、ケースワーカーがこの先何をしていくかを聞いてくれ、「ダルクに行きたい」と言ったことから今のダルクにつながりました。

最初は、みんなとあまりしゃべれず、おどおどしていましたが、スタッフさんに「6ヶ月もすればみんなとも関係性も変わってくるでしょ」と言われ、コツコツ通っていたら、ダルクに通いたてより仲間と喋るようになりました。

刑務所に6回行き、もう薬はしてはいけないと思うけど、お酒くらいは少しくらい飲んでもいいんじゃないかと思っちゃうところがあり、お酒が中々やめられませんが、仲間との関係性が変わってきているのでお酒を飲んだ後の罪悪感におそわれ嘘をついていることが出来なくなり、「ワンデー何個もらうんだよ」と思う状況の中、なんとかダルクにもNAにも参加させてもらっています。

毎日ダルクには「もう行きたくない」とミーティングでは言っているのですが、行くのをやめることも出来ず、毎日月曜日から金曜日まで通っています。自分が病気だということ、色々なこと、無理な事、その中で今自分が出来ることを探してダルクに行きたくないと言うなら、自分のいき場を探して行きたいと思います。ダルクに行きたくなくても行き場はダルクしかないのですが、7月31日でダルクに通い始めて1年、刑務所を出て3月18日で1年、薬をやらないで社会で1年が迎えられています。そういう日々を重ねていけたらと思います。

■未来に向かって■

みゆ

はじめまして依存症の美由です。私が初めてこの施設に繋がったのは4年前です。ある病院から繋がりました。私が初めて薬を使ったのは14歳の頃からで、20代後半になるまで自分は依存症であるという事がわからないまま生活していました。毎日の生活は上がり下がりが激しく、常に自分の周りには色々な問題が山積みでした。病院の先生に病気だと言われ正直ホッとしました。病院に繋がる前の私の生活は、住む家も無く薬欲しさの為に周りの人達にお金を借り、助けてくれる人もいなくなっていました。身体は薬を使わなければ動けない身体になっていたし、仕事も出来なくなっていました。



イラスト あき

その当時付き合っていた男性に暴力をふるわれている所を警察に保護され病院に繋がる事が出来たのです。病院で入院してる中、欲求が入って使いたい時もあったの

ですが、やっぱり薬を止めたい気持ちが強くて施設に繋がる事を決心しました。施設に繋がってからも何度も強い欲求がきて何度か施設を抜け出したりしてました。そのうち本当に薬を使ってしまって今の施設から違う施設に移動する事になったのです。そして移動してからもう一度薬を使ってしまいました。でも、その最後の一回が今の自分を変える事に繋がりました。最後の一回で自分は現実を見ました。もう自分は薬を使いながら生きる事も出来ないし、使わなくても生きる事がどうにもならなくなっていた事が目が覚めた瞬間でした。

それからは施設に戻り自分は薬を止める為にはなんでもやろうと思いました。それから4年と9ヶ月必死でしがみついていたつもりです。色々ありましたが何かの縁でまた今の施設に帰って来る事が出来ました。今は自立を目指して頑張っています。まだ帰ってきたばかりで施設の人間関係など自分の問題も含め色々大変ですが、本当に今日一日薬を使わないで生活する事がやっとなです。

でももうすぐ8月で5年を迎える事が出来るように今日一日を大切に生きていきたいと思います。

<B型日記>

★ 4月から就労継続支援B型事業所が始まりました。

★ まず初めに、「B型」の名前をつけることから始めました。アイデアを募集して、集まった名前をちょっと手直ししたり、くっつけたり。知恵を絞って「Libre工房」に決まりました。

Libre、リーブルと読みます。フランス語で「自由な」という意味だそうです。自由に生き生きと暮らしていけるといいなって思っています。

Libre工房の仕事始めは、内職作業。緊張して肩がこったり、腰が痛くなったり。中には「懲役」を思い出して具合悪くなる人も・・・

★ 今、みんなで取り組んでいるのが、ブックカバー作り。文庫と新書の2サイズを作っています。

新しいハイテクミシンが届いたので、これで作業効率がアップ!と思ったら「古いモノにしがみつくと癖が出てしまい、なかなか新しいモノに手がだせない。でも最近では2台のミシンがフル稼働。合間をぬって、布を裁断したり、アイロンをかけたり。これから、ニューズレターをお読みのみなさまにも品質の向上を目指していきたいなと思っています。



献金・献品ありがとうございました！ (2015. 10～2016. 3)

和田妙子 角田崇子 大森信也 風間早智子 小林信子 山田恵美
池田ひかり 宗形博子 鈴木幸子 ひがメンタルクリニック 沢田佳子
相澤靖雄 まつしま病院 梨香会 滝谷美佐保
萌クリニック

(敬省略 順不同)

★今後ともよろしくお願いいたします。

- 一口 2,000円 (一口以上、何口でも可)
- 郵便振替口座 00140-2-591609
他金融機関からの振込用口座番号
店番(019) 当座 0591609
- NPO 法人ダルク女性ハウス

賛助会員募集

■編集後記■

はじめまして。4月からダルク女性ハウスで働いている俵と申します。慣れないことが多くてバタバタしているうちにあっという間に3か月がたってしまいました。こんな私ですが、みなさまよろしくお願いいたします。

ご存じのとおり、4月から新たに就労継続支援B型施設が始まりました。簡単な内職作業や、バザーで販売する、手作りの布製品を作ったりしています。初めての作業に緊張したり、やり過ぎて疲れしたり。ゆっくりとしたペースですが、毎日少しずつ前に進んでいる気がします。これまで同様、皆さまに温かく見守っていただければと思います。

* ご寄附のお願い *

ブックカバー製作のため不要になった「紬の着物・反物」がありましたらお願いいたします。